

製品名: CREB 制御転写共役因子 2 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe03235**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.63mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 73 kDa; Observed MW: 80 kDa

抗原情報

遺伝子名	CRTC2
別名	TORC2; TORC-2
遺伝子 ID	200186
SwissProt ID	Q53ET0
免疫原	ヒト TORC2 の組み換えタンパク質

背景

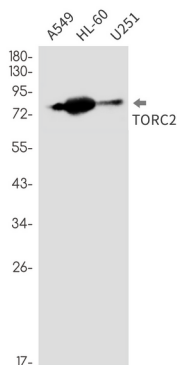
グルコース恒常性は、ホルモンと細胞のエネルギー状態によって制御されています。摂食中の血糖値の上昇は、グルコース感知経路

を介して膵臓β細胞からのインスリン放出を刺激します。摂食はまた、グルカゴン様ペプチド-1 (GLP-1) などの消化管ホルモンの放出を刺激し、これがさらにインスリン放出を誘導し、グルカゴン放出を抑制し、β細胞の生存を促進します。CREB 依存性転写は、グルコース感知と GLP-1 シグナル伝達の両方で役割を果たしていると考えられます。タンパク質 Torc2 (調節性 CREB 活性トランスドューサー 2) は CREB コアクチベーターとして機能し、これら 2 つの経路の効果の媒介に関与しています。静止細胞では、Torc2 は Ser171 でリン酸化され、14-3-3 タンパク質との相互作用を介して細胞質に隔離されます。グルコースと消化管ホルモンは、Torc2 の脱リン酸化と 14-3-3 タンパク質からの解離を引き起こします。脱リン酸化 Torc2 は核内に移行し、CREB 依存性転写を促進する。Torc2 は、絶食中のホルモンおよびエネルギーシグナルに応答した肝臓における糖新生遺伝子転写の調節において重要な役割を果たす。組織特異性: 胸腺で最も多く発現する。B リンパ球および T リンパ球の両方に存在。HEK293T 細胞およびインスリノーマで高発現。脾臓、卵巣、筋肉、肺でも高発現し、筋肉で最も高発現する。脳、結腸、心臓、腎臓、前立腺、小腸、胃でも低発現が認められる。肝臓および膵臓では発現が弱い。

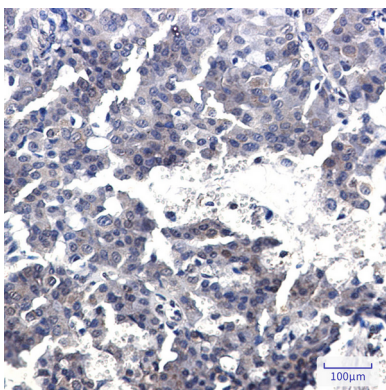
研究分野

シグナル伝達

画像データ



CREB 制御転写共活性化因子 2 抗体を使用した A549、HL-60、U251 溶解物中の TORC2 のウェスタンプロット分析。



TORC2 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。